

70,000 more should evacuate after Fukushima: Watchdog

AFP | May 24, 2011, 05.30pm IST

<http://timesofindia.indiatimes.com/world/rest-of-world/70000-more-should-evacuate-after-Fukushima-Watchdog/articleshow/8556684.cms>

福島：さらに7万人を避難させるべき

フランスの放射線防護原子力安全研究所(IRSN)報告書

AFP 通信社

2011年5月24日、5:30pm IST、パリ

(日本語仮訳)

フランスの放射線防護原子力安全研究所(IRSN)は、福島県の「避難指示地域」外に居住する7万人の人々を直ちに避難すべき、と発表した。これは、原発周辺20キロメートル圏を超えた地域での放射能蓄積のためとされる。

IRSNは、すでに住民の避難が行われた福島原発北西に位置する、20キロメートル(12マイル)圏外の地域を取り上げており、3月11日の災害に関するIRSNのこれまでの評価を更新し、報告が行われた。

月曜遅くに発表されたIRSNの報告書によると、この地域における放射能レベルは1平方メートルあたり数百ベクレルから、数千または数百万ベクレルにもおよんでいる。

また、この地域には14歳未満の子どもたち9千5百人を含む、およそ7万人の人々が居住しており、IRSNは「避難指示地域外において、最も汚染された区域である」と述べている。

IRSN環境局長ディディエ・シャンピオンは、AFPに対し「3月の非常事態において避難された人々に加え、これらの人々を直ちに避難すべきである」と述べた。

IRSNによると、この区域に留まることは、住民が災害後1年間で10ミリシーベルトを超える放射線に被爆をすることを意味している。

10ミリシーベルトは、原発災害において市民を保護するための、フランスにおける安全性ガイドラインにおいて使用されており、フランスにおける自然放射線の3倍である。

シャンピオン氏は、「10ミリシーベルトは、予防線量であり必ずしも危険な線量ではないが、汚染された食物や水からの追加線量を含むものではない」と述べている。

10ミリシーベルトは、1平方メートル当たり、少なくとも60万ベクレル相当の被爆計算に由来し、セシウム137や134といった長期にわたる放射能物質による放射を考慮している。

さらに、IRSNの報告書によって確認された7万人の人々の内、2万6千人以上の人々が、災害後1年間で16ミリシーベルト以上の被爆をする可能性がある。

5月15日、日本政府は福島原発から30キロメートルに位置する飯舘村の4千人の住民と、川俣町の1千百人の住民の避難を開始した。これら2つの地域は、風向によりこれまで大量の放射性粉塵を受けている。

IRSNの報告書は、日本政府による放射能データ及びアメリカ合衆国の上空飛行データに基づいている。

(仮訳:volunteer translators/グリーン・アクション)